

平成 24 年度 決算 に 係 る

定 期 監 査  
決 算 審 査 調 書

平成 25 年 8 月

教育委員会事務局特別支援教育課

目 次

1 5	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	2 頁
3	組織及び業務調べ	3 頁
4	職員の定員、現員調べ	3 頁
5	役付職員の調べ	3 頁
6	主な事業に関する調べ	4 頁
7	決算調書（総括表）	11 頁
8	事業別実施状況調べ	12 頁
9	予備費の充用調べ	15 頁
10	繰越関係調べ	15 頁
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
11	収入証紙取扱額調べ	16 頁
12	収入事務処理状況調べ	16 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 寄付金	
	(6) 諸収入	
	(7) 現金の取扱状況	
13	税外収入未済額調べ	17 頁
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	17 頁
15	税外収入不納欠損額調べ	17 頁
16	債務負担行為の状況調べ	18 頁
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	19 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(2-2) 補助金（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
	(4-2) 委託料（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
18	工事請負費調べ	23 頁
18-2	工事請負費調べ（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	24 頁
19	財産に関する調べ	25 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
20	財産の貸付及び使用許可調べ	25 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
21	借受不動産明細調べ	25 頁
22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	25 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
23	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	25 頁
24	寄附物件の受納状況調べ	25 頁
25	備品の処分状況調べ	25 頁
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	25 頁
27	貸付金等状況調べ	25 頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等	25 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見

監 査 意 見	処 理 状 況 等
<p>(1) いじめ問題への取組について</p> <p>学校におけるいじめ問題は、昨年10月の大津市の中学生の自殺に端を発し、本年9月には川西市の生徒の自殺等、全国的な社会問題になっている。</p> <p>また、本県でも、米子市においていじめによる被害届が警察署に提出され、境港市においてもいじめが懸念される事案が発生する等、深刻な問題となっている。</p> <p>いじめの発生事案からは、学校でいじめの把握ができていなかったり、その把握が遅くなる等の問題もあり、的確な対応がなされていない状況もうかがえる。</p> <p>このような状況に対応するためには、平素からいじめの実態を常に把握し、県及び県教育委員会、市町村教育委員会、学校、保護者等が一層の連携を行う必要がある。</p> <p>ついでには、県教育委員が県民に対し、いじめ問題に対する姿勢を明らかにし、いじめを許さない地域・学校文化、学級づくり、いじめの早期発見・早期対応及び事案が発生した場合の迅速で誠意ある対応等の対策を講じられたい。</p>	<p>県教育委員会として、市町村教育委員会とも連携しながら、総合的ないじめに関する対応策を打ち出していくとともに、学校での「いじめは絶対に許さない」という、強い信念と姿勢のもとでの学校組織としての対応が重要と考えており、学校の現場対応力の向上に努めている。</p> <p>平成25年1月には、深刻化するいじめ事案や新たに発生しているネットいじめの問題等への対応も盛り込んで「いじめ対策指針」を改訂し、各校にその活用について通知し、県としてのいじめに対する指針を示した。</p> <p>県民の皆さんに対しては、県教育委員会のホームページやメールマガジン、新聞広告等の広報を通じていじめに関するメッセージを出しており、12月に発行した「教育だより とっとり夢ひろば」では、教育委員長のメッセージを全ての児童生徒を通じて、保護者へ届けた。</p> <p>特別支援学校においては、日常的に教員による児童生徒の観察等を行い、早期対応に努めているが、よりの確にいじめを早期発見するために、心理検査（hyper-QU）を実施し、児童生徒一人ひとりの心の内面や学校内での人間関係を客観的に把握することで、児童生徒への適切な対応に活用した。</p> <p>併せてhyper-QUの検査結果を活用するための研修会を実施した。</p> <p>今後も、教員研修などを通じた学校の対応力の向上支援、人権教育の充実などを通して、場面ごとに求められる適切な対応ができるよう、引き続き取り組んで行く。</p>
<p>(3) 高等学校生徒への特別な支援に係る情報提供や支援体制について</p> <p>小中学校においては、発達障がいのある児童生徒のうち、知的障がいを伴わない者は特別支援学校の入学対象とならず、学習や生活の面でサポートが必要な場合は、一般の小中学校に在籍して、児童生徒ごとに個別の教育支援計画を作成して支援を行っている。</p> <p>高等学校においても発達障がいのある生徒の支援を図るためには、個別の教育支援計画の作成が必要であり、そのためには中学校か</p>	<p>中学校から高等学校への個別の教育支援計画を活用した引継の実施については、小中学校長会をとおして、その推進を呼びかけたところである。</p> <p>個別の教育支援計画の作成については、保護者理解を進めていくことが課題であり、平成25年3月に個別の教育支援計画の作成に係る保護者啓発リーフレット「支援をつなぐ」を作成し、保護者や小中学校等への啓発を行い、早期からの支援体制整備を進めている。</p>

<p>ら高等学校へ個人の情報を引き継ぐ必要がある。</p> <p>しかし、保護者の意向等により、中学校から高等学校へ引き継がれていない場合も想定されるが、個別の教育支援計画の高等学校への引継状況を十分に把握していない状況が見受けられた。</p> <p>については、発達障がいに係る個別の教育支援計画の中学校から高等学校への情報提供が行われていない実態やその原因を把握し、円滑な情報提供の仕組みづくりを検討されたい。</p> <p>また、高等学校において発達障がい、被虐待、不登校等の問題を抱える生徒に対応するためには、福祉相談センターや福祉・医療機関等との連携も必要である。</p> <p>については、各高等学校の状況をよく把握し、必要な生徒に十分な対応ができるよう、スクールカウンセラーの常駐化やソーシャルワーカーの配置なども検討されたい。</p>	<p>また、小中学校の通常学級における個別の教育支援計画の作成状況について、調査を行った。その結果を踏まえ、円滑な情報提供の仕組みづくりを検討していきたい。</p>
---	--

(3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況  
 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
特別支援教育課	総務担当	○公立の特別支援学校及び特別支援学級の幼児、児童及び生徒の就学奨励に関すること。
	管理担当	○県立特別支援学校の設置、廃止及び管理の指導に関すること。 ○県立特別支援学校の教職員の定数及び任免その他の人事に関すること。 ○県立特別支援学校の教職員の組織する職員団体に関すること。
	指導担当	○公立の特別支援学校の教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。 ○公立の特別支援学校の教科用図書及び教材の取扱いに関すること。
	西部病弱教育担当	○西部地区病弱特別支援学校高等部設置に間すること。 ○西部地区病弱特別支援学校小中学部の在り方に関すること。 ○西部地区病弱特別支援学校高等部設置に係る生徒募集・教育課程に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

区分	種別	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
		25.4.1現在	24.4.1現在	25.4.1現在	24.4.1現在	25.4.1現在	24.4.1現在	25.4.1現在	24.4.1現在	
	定員	11	13					11	13	
	現員	11	13					11	13	高等特別支援学校準備室 △4 管理担当+1 西部病弱教育担当+1
	過不足(△)	0	0					0	0	
	臨時職員									
	非常勤職員	1	0					1	0	事務補助+1

5 役付職員の調べ

(平成25年8月1日現在)

職名	氏名	在職期間	備考
課長	足立 正久	年 月 4	
課長補佐	田貝 隆	1 4	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要																				
<p>1 発達障がい児童生徒支援事業</p> <p>決算額 2,798千円</p> <p>(財源内訳) 一般財源 2,798千円</p> <p>○将来ビジョン VI 育む (2)「人材・鳥取」の推進</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 小中学校の通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒への教育的支援を行う。</p> <p>(イ) 事業の実施状況 教員の専門性の向上を図るとともに、福祉・医療・教育が連携し、一貫した支援体制整備を行った。</p> <table border="1" data-bbox="467 573 1409 1966"> <thead> <tr> <th data-bbox="467 573 762 611">項目</th> <th data-bbox="762 573 1409 611">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="467 611 762 723">発達障がい者支援センターへの教員の派遣</td> <td data-bbox="762 611 1409 723">福祉と教育の連携を強化するために、教員を1名派遣。県内の様々なケースの支援会議に参加し、指導助言を行った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 723 762 1066">発達障がい教育拠点（白兔・倉吉・県立米子養護学校）における通級による指導</td> <td data-bbox="762 723 1409 1066"> <p>発達障がいのある児童生徒を対象とした通級による指導を実施した。</p> <p>利用者</p> <p>白兔養護学校：小学生4名・中学生2名 倉吉養護学校：小学生8名・中学生6名 県立米子養護学校：小学生10名・中学生1名 (幼児と高校生については、教育相談対応)</p> <p>また、発達障がい教育拠点として、特に各圏域の学校への指導、支援にあたった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1066 762 1178">*LD等専門員研修派遣</td> <td data-bbox="762 1066 1409 1178">小中学校の教員を大学に派遣し、LD等の障がいのある児童生徒への専門的指導法等の知識を持った教員を3名養成した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1178 762 1290">教育相談等研修派遣</td> <td data-bbox="762 1178 1409 1290">特別支援学校の教員を大学に派遣し、発達障がい等の児童生徒の対応や相談指導にあたる教員を3名養成した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1290 762 1357">LD等専門員の配置</td> <td data-bbox="762 1290 1409 1357">専門研修を受けた教員を小中学校等に12名配置し、発達障がいのある児童生徒への支援にあたった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1357 762 1469">LD等非常勤講師の配置</td> <td data-bbox="762 1357 1409 1469">LD等により、特別な支援が必要な児童生徒が在籍し、学級経営上困難を極めている小中学校の通常の学級に非常勤講師を延べ26名配置した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1469 762 1581">小学校における*通級指導教室の設置</td> <td data-bbox="762 1469 1409 1581">LD等発達障がいの児童を対象とした通級指導教室を18校に設置し、児童及び保護者の指導・支援にあたった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1581 762 1783">高等学校における支援体制整備</td> <td data-bbox="762 1581 1409 1783">特別支援教育担当者の指名、校内委員会の設置、校内研修会実施に向けた啓発を行った。高等学校課と連携し、全県立高等学校の全教職員を対象とした校内研修会を行った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="467 1783 762 1966">特別支援教育連絡会の開催</td> <td data-bbox="762 1783 1409 1966">東・中・西部地区の各圏域の特別支援教育支援体制のシステムをより機能させるために、LD等専門員や特別支援教育コーディネーター等の専門性を有する教育関係者による「特別支援教育連絡会」を開催し、一層の特別支援教育支援体制の充実を図った。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	発達障がい者支援センターへの教員の派遣	福祉と教育の連携を強化するために、教員を1名派遣。県内の様々なケースの支援会議に参加し、指導助言を行った。	発達障がい教育拠点（白兔・倉吉・県立米子養護学校）における通級による指導	<p>発達障がいのある児童生徒を対象とした通級による指導を実施した。</p> <p>利用者</p> <p>白兔養護学校：小学生4名・中学生2名 倉吉養護学校：小学生8名・中学生6名 県立米子養護学校：小学生10名・中学生1名 (幼児と高校生については、教育相談対応)</p> <p>また、発達障がい教育拠点として、特に各圏域の学校への指導、支援にあたった。</p>	*LD等専門員研修派遣	小中学校の教員を大学に派遣し、LD等の障がいのある児童生徒への専門的指導法等の知識を持った教員を3名養成した。	教育相談等研修派遣	特別支援学校の教員を大学に派遣し、発達障がい等の児童生徒の対応や相談指導にあたる教員を3名養成した。	LD等専門員の配置	専門研修を受けた教員を小中学校等に12名配置し、発達障がいのある児童生徒への支援にあたった。	LD等非常勤講師の配置	LD等により、特別な支援が必要な児童生徒が在籍し、学級経営上困難を極めている小中学校の通常の学級に非常勤講師を延べ26名配置した。	小学校における*通級指導教室の設置	LD等発達障がいの児童を対象とした通級指導教室を18校に設置し、児童及び保護者の指導・支援にあたった。	高等学校における支援体制整備	特別支援教育担当者の指名、校内委員会の設置、校内研修会実施に向けた啓発を行った。高等学校課と連携し、全県立高等学校の全教職員を対象とした校内研修会を行った。	特別支援教育連絡会の開催	東・中・西部地区の各圏域の特別支援教育支援体制のシステムをより機能させるために、LD等専門員や特別支援教育コーディネーター等の専門性を有する教育関係者による「特別支援教育連絡会」を開催し、一層の特別支援教育支援体制の充実を図った。	
項目	内容																					
発達障がい者支援センターへの教員の派遣	福祉と教育の連携を強化するために、教員を1名派遣。県内の様々なケースの支援会議に参加し、指導助言を行った。																					
発達障がい教育拠点（白兔・倉吉・県立米子養護学校）における通級による指導	<p>発達障がいのある児童生徒を対象とした通級による指導を実施した。</p> <p>利用者</p> <p>白兔養護学校：小学生4名・中学生2名 倉吉養護学校：小学生8名・中学生6名 県立米子養護学校：小学生10名・中学生1名 (幼児と高校生については、教育相談対応)</p> <p>また、発達障がい教育拠点として、特に各圏域の学校への指導、支援にあたった。</p>																					
*LD等専門員研修派遣	小中学校の教員を大学に派遣し、LD等の障がいのある児童生徒への専門的指導法等の知識を持った教員を3名養成した。																					
教育相談等研修派遣	特別支援学校の教員を大学に派遣し、発達障がい等の児童生徒の対応や相談指導にあたる教員を3名養成した。																					
LD等専門員の配置	専門研修を受けた教員を小中学校等に12名配置し、発達障がいのある児童生徒への支援にあたった。																					
LD等非常勤講師の配置	LD等により、特別な支援が必要な児童生徒が在籍し、学級経営上困難を極めている小中学校の通常の学級に非常勤講師を延べ26名配置した。																					
小学校における*通級指導教室の設置	LD等発達障がいの児童を対象とした通級指導教室を18校に設置し、児童及び保護者の指導・支援にあたった。																					
高等学校における支援体制整備	特別支援教育担当者の指名、校内委員会の設置、校内研修会実施に向けた啓発を行った。高等学校課と連携し、全県立高等学校の全教職員を対象とした校内研修会を行った。																					
特別支援教育連絡会の開催	東・中・西部地区の各圏域の特別支援教育支援体制のシステムをより機能させるために、LD等専門員や特別支援教育コーディネーター等の専門性を有する教育関係者による「特別支援教育連絡会」を開催し、一層の特別支援教育支援体制の充実を図った。																					

事業名	概要		要																				
(1 発達障がい児童生徒支援事業)	「個別の教育支援計画」等の作成・活用の啓発	小・中・高等学校における「個別の教育支援計画」等の作成・活用について、相談活動等で理解啓発を行うとともに、保護者向けリーフレット「支援をつなぐ」を作成した。																					
	早期発見・早期支援体制整備の啓発	早期発見・早期支援の充実を図り、よりよい就学につなげるため、幼稚園（保育所）における園内体制の整備について、国公立園長会や市町村担当者連絡会に参加し、理解啓発を進めた。																					
* LD等専門員：LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）、高機能自閉症等の発達障がいのある児童生徒等への支援について巡回相談や依頼相談を行う他、研修会の講師等を行っている。																							
* 通級指導教室：障がいの状態がそれぞれ異なる個々の児童生徒に、個別指導を中心とした特別の指導をきめ細やかに、弾力的に提供する「通級による指導」をする教室のこと。障がいによる学習上又は生活上の困難を克服・改善することを目的に、週に数単位時間程度行う。																							
<b>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</b>																							
一貫した指導・支援の充実を図るために、高等学校課と連携し、中学校から高等学校への引継については、合格者登校日を引継日に設定した。保護者の理解と了解を得られたケースにおいて個別の教育支援計画等を活用した引継を進めるために、保護者向けリーフレットを作成した。																							
学校の支援体制の充実を図るために、チェックリストを作成し、LD等専門員の巡回相談で活用したり、特別支援教育主任研修で情報発信したりした。																							
また、学校現場の状況をよりの確に把握するために、鳥取県版の特別支援教育体制整備状況調査を行った。																							
<b>ウ 成果</b>																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談活動やケース支援会議等で、LD等専門員と発達障がい者支援センターの職員が参加する等、教育と福祉の支援のネットワークが広がりつつある。</li> <li>・相談活動や研修会等での理解啓発を進めてきており、個別の教育支援計画の作成率が少しずつ高まってきている。</li> </ul>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>県立高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21.9.1現在</td> <td>69.7%</td> <td>53.2%</td> <td>20.8%</td> </tr> <tr> <td>H22.9.1現在</td> <td>80.7%</td> <td>80.6%</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>H23.9.1現在</td> <td>85.7%</td> <td>88.7%</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>H24.9.1現在</td> <td>90.4%</td> <td>87.1%</td> <td>54.2%</td> </tr> </tbody> </table>				区分	小学校	中学校	県立高等学校	H21.9.1現在	69.7%	53.2%	20.8%	H22.9.1現在	80.7%	80.6%	41.7%	H23.9.1現在	85.7%	88.7%	37.5%	H24.9.1現在	90.4%	87.1%	54.2%
区分	小学校	中学校	県立高等学校																				
H21.9.1現在	69.7%	53.2%	20.8%																				
H22.9.1現在	80.7%	80.6%	41.7%																				
H23.9.1現在	85.7%	88.7%	37.5%																				
H24.9.1現在	90.4%	87.1%	54.2%																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導の実施により、在籍校との連携が図られ、通常の学習における配慮等にも生かされてきている。</li> <li>・LD等専門研修派遣を終えた者をLD等専門員や通級指導担当教員として配置することにより教育的支援の充実を図る一助となった。平成24年度のLD等専門員による相談活動の延べ件数は、5,019件であった。</li> </ul>																							
（H21年度 6,257件・H22年度 5,724件・平成23年度 6,633件）																							
<b>エ 課題</b>																							
幼稚園（保育所）から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校へと移行する際、校種間の移行をスムーズにし一貫した支援を行うために「個別の教育支援計画」の作成と活用を進めているが、学校教職員の専門性の向上と保護者との共通理解を進めるための相談支援体制の充実を図る必要がある。																							
また、個別の教育支援計画の作成・活用を進めるために、地域内において関係部局との連携を深めるとともに、地域内の理解啓発を進める必要がある。																							

事業名	概要	要												
<p>2 特別支援学校 就労促進事業</p> <p>決算額 13,877千円</p> <p>(財源内訳) 一般財源 13,791千円 雑入 86千円</p> <p>○将来ビジョン I ひらく (3)いきいきと働ける就業環境</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 特別支援学校卒業生の就労を促進、進路指導を充実させることを目的として次のような事業を実施した。</p> <p>○ジョブコーチ研修への教員の派遣、就労促進に向けた教育課程やコース制の検討の実施</p> <p>○進路先の開拓を進めるため、就労サポーターの配置</p> <p>○障がい者雇用を推進するため、障がい者のモデル的な雇用</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○職業教育促進事業</p> <table border="1" data-bbox="466 651 1410 952"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職業指導スキルアップ研修</td> <td>教職員の指導力向上を目的とし、教員をジョブコーチセミナーに派遣する。企業開拓、就労支援のための専門知識の向上及び方法と技術の習得を図る。</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校就労促進協議会</td> <td>職業教育の改善、充実を目的とし、特別支援学校高等部主事、進路指導担当者等を対象とした本協議会を実施する。教育課程、コース制、作業内容等に係る協議を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○就労促進調査モデル事業</p> <table border="1" data-bbox="466 987 1410 1406"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援学校就労モデル事業</td> <td>職業準備訓練及び、指導ノウハウを在校生の進路指導へ活用することを目的とし、特別支援学校卒業生を給食補助員として1年間雇用する。 [白兔養、倉吉養、県米養の3校に各1名ずつ雇用]</td> </tr> <tr> <td>就労サポーター事業</td> <td>卒業生の就労促進及び実習受入れ等に係る職場開拓を目的とし、知的障がい者等の就労に関する実務経験を有する者などを非常勤職員として配置する。職場開拓、作業学習等への助言等の業務を行う。 配置校：白兔養護学校、倉吉養護学校、 県立米子養護学校</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校就労促進協議会の開催にあたっては、各校における進路指導の充実を図り、教育・福祉・労働の連携を深めるため、商工労働部雇用人材総室及び福祉保健部障がい福祉課より障がい者就労担当者にオブザーバーとしてのそれぞれ参加を依頼した。</li> <li>・キャリア教育の推進に向けた担当者研修を開催した。</li> </ul> <p>ウ 成果</p> <p>○職業教育促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援の専門的な知識技能を学校へ還元し、就職に対する生徒の心構えや意識の変革が進んだことにより、就職を希望する生徒の割合はほぼ同率を維持できた。</li> <li>・卒業者の就職率は前年度の数値には及ばなかったものの、近年では2番目に高い数値であった。また就職希望者の就職率も約8割程度を維持できた。</li> <li>・特別支援学校就労促進協議会においては、福祉・労働の関係機関のオブザーバー参加により、学校現場の意見・要望を直接話し合える機会となった。</li> </ul> <p>&lt;卒業者数に占める就職希望者数の割合&gt; [35.8% (H22) →47.8% (H23) →45.5% (H24)]</p>	項目	内容	職業指導スキルアップ研修	教職員の指導力向上を目的とし、教員をジョブコーチセミナーに派遣する。企業開拓、就労支援のための専門知識の向上及び方法と技術の習得を図る。	特別支援学校就労促進協議会	職業教育の改善、充実を目的とし、特別支援学校高等部主事、進路指導担当者等を対象とした本協議会を実施する。教育課程、コース制、作業内容等に係る協議を行う。	項目	内容	特別支援学校就労モデル事業	職業準備訓練及び、指導ノウハウを在校生の進路指導へ活用することを目的とし、特別支援学校卒業生を給食補助員として1年間雇用する。 [白兔養、倉吉養、県米養の3校に各1名ずつ雇用]	就労サポーター事業	卒業生の就労促進及び実習受入れ等に係る職場開拓を目的とし、知的障がい者等の就労に関する実務経験を有する者などを非常勤職員として配置する。職場開拓、作業学習等への助言等の業務を行う。 配置校：白兔養護学校、倉吉養護学校、 県立米子養護学校	
項目	内容													
職業指導スキルアップ研修	教職員の指導力向上を目的とし、教員をジョブコーチセミナーに派遣する。企業開拓、就労支援のための専門知識の向上及び方法と技術の習得を図る。													
特別支援学校就労促進協議会	職業教育の改善、充実を目的とし、特別支援学校高等部主事、進路指導担当者等を対象とした本協議会を実施する。教育課程、コース制、作業内容等に係る協議を行う。													
項目	内容													
特別支援学校就労モデル事業	職業準備訓練及び、指導ノウハウを在校生の進路指導へ活用することを目的とし、特別支援学校卒業生を給食補助員として1年間雇用する。 [白兔養、倉吉養、県米養の3校に各1名ずつ雇用]													
就労サポーター事業	卒業生の就労促進及び実習受入れ等に係る職場開拓を目的とし、知的障がい者等の就労に関する実務経験を有する者などを非常勤職員として配置する。職場開拓、作業学習等への助言等の業務を行う。 配置校：白兔養護学校、倉吉養護学校、 県立米子養護学校													



事業名	概要				
<p>(2 特別支援学校 就労促進事業)</p>	<p>&lt;卒業者の就職率&gt;※就労継続支援A型を含む [28.3% (H22) →42.5% (H23)→35.7% (H24)] &lt;就職希望者の就職率&gt;※就労継続支援A型を含む [79.1% (H22) →88.9% (H23)→78.5% (H24)]</p> <p>○就労促進調査モデル事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の働く姿を実際に見せることにより、特に高等部生徒にとって就労モデルとなっており、在校生の就労意欲の向上につながった。</li> <li>給食補助員の就労モデル事業は一定の成果が得られた（給食調理補助業務の指導ノウハウの蓄積、モデル事業就業者のうち2名が一般企業へ就職）</li> <li>就労サポーター事業の成果として、実習先企業や就職を受け入れる企業数が増加した。また各圏域で開催している就労促進セミナーへの参加企業数も増加している。（H24参加企業数：110社、H23参加企業数：51社）</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい雇用情勢を踏まえ、関係部局で一層の連携を図りながら、企業等への理解及び啓発の推進に一層努める必要がある。</li> <li>各学校で児童生徒のキャリア教育を一層推し進めるため、各学校の実態に応じた一貫性のある指導内容等の研究を進め、指導体制を整備する必要がある。</li> <li>就労モデル事業において、1年では本人の就労につながる力を身につけるまでに至るのは難しいという報告が複数校であった。平成25年度からは琴の浦高等特別支援学校において、学校事務補助業務に2年間雇用するモデル事業に移行する事業見直しを行ったところであり、定期的な現場の状況の視察を行い、成果確認を行うことが必要である。</li> </ul>				
<p>3 特別支援教育 総合推進事業</p> <p>決算額 1,146千円</p> <p>(財源内訳) 国庫 559千円 一般財源 587千円</p> <p>○将来ビジョン VI 育む (2)「人材・鳥取」 の推進</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 発達障がいを含む全ての障がいのある幼児児童生徒への一貫した支援を行う「推進地域」を指定し、地域の体制整備及び理解啓発活動の促進を図るとともに、学校等の特別支援教育を一環的かつ総合的に推進する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="467 1473 1407 1818"> <thead> <tr> <th data-bbox="467 1473 762 1518">項目</th> <th data-bbox="762 1473 1407 1518">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="467 1518 762 1818">推進地域における特別支援教育体制整備の推進・充実</td> <td data-bbox="762 1518 1407 1818">推進地域内において、域内の小中学校の特別支援教育主任の中から1名を「就学指導コーディネーター」に指名し、地域内の体制整備の推進役として活動を行い、地域内の関係機関との連絡調整や個別の教育支援計画等による一貫した就学相談に向けた体制整備の推進・充実を進めた。就学指導コーディネーターの業務負担を軽減するために非常勤講師を配置した。（推進地域：H24～鳥取市、南部町）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(文部科学省補助金事業)</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育体制整備において、管理職研修等の機会を捉え、学校の体制整備についての理解啓発を図った。</li> <li>推進地域において一貫した支援の継続を図るために、地域内における関係部局との連絡会の定例化、個別の教育支援計画の作成と活用を進めた。</li> </ul>	項目	内容	推進地域における特別支援教育体制整備の推進・充実	推進地域内において、域内の小中学校の特別支援教育主任の中から1名を「就学指導コーディネーター」に指名し、地域内の体制整備の推進役として活動を行い、地域内の関係機関との連絡調整や個別の教育支援計画等による一貫した就学相談に向けた体制整備の推進・充実を進めた。就学指導コーディネーターの業務負担を軽減するために非常勤講師を配置した。（推進地域：H24～鳥取市、南部町）
項目	内容				
推進地域における特別支援教育体制整備の推進・充実	推進地域内において、域内の小中学校の特別支援教育主任の中から1名を「就学指導コーディネーター」に指名し、地域内の体制整備の推進役として活動を行い、地域内の関係機関との連絡調整や個別の教育支援計画等による一貫した就学相談に向けた体制整備の推進・充実を進めた。就学指導コーディネーターの業務負担を軽減するために非常勤講師を配置した。（推進地域：H24～鳥取市、南部町）				

事業名	概要
(3 特別支援教育 総合推進事業)	<p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進地域において、就学指導コーディネーターを指名し、その業務負担を軽減するために非常勤講師を配置したことにより、小中学校や関係機関等との連絡調整や支援の充実を進めることができた。また、一貫した支援の継続を目指し、関係機関との連携も進んできた。</li> <li>・巡回・依頼相談や研修会等を通して、教師の専門性の向上を図っている。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <p>一貫した支援の継続を目指し、就学先の決定や就学先へのスムーズな移行を行い、就学後も次の学年や校種へ支援を引き継ぐために、個別の教育支援計画の作成と有効な活用を進めていく必要がある。また、保護者の理解啓発を進めていくために、地域内の関係機関が連携した相談機関の充実と窓口の明確化を進め、保護者支援の体制の充実を図ることが必要である。</p>
<p>4 県立高等特別支援学校開設準備事業</p> <p>決算額 12,074千円</p> <p>(財源内訳) 一般財源 12,074千円</p> <p>○将来ビジョン VI 育む (2)「人材・鳥取」の推進</p> <p>○政策項目 IV 人財とっとり (5)高等特別支援学校開校</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>平成25年4月の県立高等特別支援学校の開校に向けて具体的な教育内容を検討するとともに、施設設備の整備等、開校にまでに必要な準備作業を行う。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○各種説明会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校概要を広く県民に周知するための学校説明会及び出願を検討している生徒に、より学校を理解していただくための生徒対象説明会を開催した</li> <li>・学校への志願を検討している中学校及び特別支援学校に対し、入学者選抜実施要項の説明会を開催した</li> </ul> <p>○校章及び校歌の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校章及び校歌(歌詞)の公募</li> <li>・校章選考委員会の開催  <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;委員&gt;10名(有識者、地域関係者、保護者代表、学校関係者)</li> <li>&lt;概要&gt;応募103点の中から4点を選考し教育委員会に提案</li> </ul> </li> <li>・校歌(歌詞)選考委員会の開催  <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;委員&gt;9名(有識者、地域関係者、保護者代表、学校関係者)</li> <li>&lt;概要&gt;応募11点の中から3点を選考し教育委員会に提案</li> </ul> </li> </ul> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>平成23年2月に決定した整備方針に基づき、施設整備や教育内容等の具体化に取り組んだ。</p> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者選抜を実施(学校)し、38名の入学者を決定した。</li> <li>・学校の設置目的、教育内容、選抜方針等について、生徒、保護者、学校関係者等への周知及び適切な相談、情報提供ができた。</li> <li>・校章及び校歌(歌詞)を決定した。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <p>平成25年4月の入学者が定員割れとなった。潜在的ニーズはあると思われるので、学校による学校説明会、体験入学、入学相談などの取組を工夫し、出願者数増加を目指す。</p>

事業名	概要
<p>5 県立高等特別支援学校整備費</p> <p>決算額 1,172,322千円</p> <p>(財源内訳) 国庫支出金 15,174千円 繰越金 1,157,148千円</p> <p>○将来ビジョン VI 育む (2)「人材・鳥取」の推進</p> <p>○政策項目 IV 人財とっとり (5)高等特別支援学校開校</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 特別支援学校生徒の職業教育の充実を図り、就労機会を拡大するため、平成25年4月の県立高等特別支援学校の設置に向けて校舎、寄宿舍等の施設整備を行った。</p> <p>(イ) 事業の実施状況（営繕課、中部総合事務所建築住宅課により実施）</p> <p>○教室棟新築及び既存校舎、体育館等の耐震及び内部改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成：平成25年1月末</li> <li>・平成24年度支出額：793,275千円（総工費1,286,595千円）</li> </ul> <p>○ランチルーム新築工事（発注・着工）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成：平成25年7月末</li> <li>・平成24年度支出額：50,770千円（総工費 130,526千円）</li> </ul> <p>○寄宿舍新築工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校敷地内に通学困難な生徒のための寄宿舍新築工事に着手</li> <li>・完成：平成25年1月末</li> <li>・平成24年度支出額：328,277千円（総工費 538,737千円）</li> </ul> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 整備スケジュールのとおり工事が実施できるよう、毎月工事調整会議において工事の進捗状況を把握するとともに、詳細な調整（色合い、備品設備の仕様等）を行った。</p> <p>ウ 成果 計画している整備スケジュールのとおり教室棟新築他工事、寄宿舍新築工事及び農場栽培ハウス整備の実施設計・工事に着手できた。</p> <p>エ 課題 なし</p>

事業名	概要																								
<p>6 学校裁量予算指導充実費 (教育環境課予算)</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的            学校長が独自性を発揮した学校運営ができるよう、学校運営費、教職員旅費とともに指導充実費の総額を年度当初に学校に一括配分し、学校長裁量による予算執行（必要に応じ節間流用が可能）を認めることにより、学校の自立度を高め、児童生徒等の状況に応じた学校づくりを進める。</p> <p>&lt;積算内訳&gt;</p> <table border="1" data-bbox="515 535 1361 763"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>積算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導充実費</td> <td>学校が自ら要求書を作成し、特別支援教育課が査定及び配分額を決定</td> </tr> <tr> <td>学校運営費</td> <td>(教育環境課より別途要求)</td> </tr> <tr> <td>教職員旅費</td> <td>過去3年間決算平均額、職員数・児童生徒数増減に伴う調整、旅費見直しに伴う調整等により決定</td> </tr> </tbody> </table> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○指導充実費&lt;各特別支援学校の主な事業&gt;</p> <table border="1" data-bbox="515 835 1361 1630"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>主な事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥取盲</td> <td>社会人講師招聘事業、現場実習受入企業等への謝金 職場開拓フォローアップ事業、生活自立講師招聘事業</td> </tr> <tr> <td>鳥取聾</td> <td>学力向上推進事業、自己認識力向上推進事業 自己表現力向上推進事業</td> </tr> <tr> <td>鳥取養護</td> <td>ネットワーク拡大推進事業、社会人育成事業 生活自立向上事業</td> </tr> <tr> <td>白兔養護</td> <td>社会人講師招聘事業、児童生徒の就労体験充実事業 職場開拓フォローアップ事業、就労セミナー事業 命の尊厳を守り育む事業 自立に向けた豊かな体験充実事業</td> </tr> <tr> <td>倉養養護</td> <td>生命の尊厳を守りはぐくむ事業、学校見学・就労セミナー 「自立」と「社会参加」をめざす豊かな体験活動事業 産業現場等における実習関連事業、職場開拓・追指導</td> </tr> <tr> <td>皆生養護</td> <td>社会人講師招聘事業、現場実習受入促進事業 職場開拓・フォローアップ事業、進路指導推進事業 コース別学習充実事業、わくわく体験事業</td> </tr> <tr> <td>米子養護</td> <td>就労促進啓発事業、農学連携推進事業 作業製品販売事業、現場実習受入先支援事業 職場開拓・フォローアップ事業、社会人講師招聘事業 けんべいアクティブチャレンジ事業、地域貢献事業</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点            各学校の抱える課題や児童生徒のニーズにより適した事業を独自に立案し、予算化することにより、各学校の弾力的・戦略的・柔軟な事業展開を進める。</p> <p>ウ 成果            &lt;指導充実費&gt;            年度中途での事業の変更や追加もあり、学校の課題解決に向けて、迅速かつ柔軟に対応しながら取り組んでいる。</p> <p>エ 課題            &lt;指導充実費&gt;            既存の事業以外の取り組みが少なく、さらに学校の特色を生かした事業計画が望まれる。</p>	区分	積算方法	指導充実費	学校が自ら要求書を作成し、特別支援教育課が査定及び配分額を決定	学校運営費	(教育環境課より別途要求)	教職員旅費	過去3年間決算平均額、職員数・児童生徒数増減に伴う調整、旅費見直しに伴う調整等により決定	学校名	主な事業名	鳥取盲	社会人講師招聘事業、現場実習受入企業等への謝金 職場開拓フォローアップ事業、生活自立講師招聘事業	鳥取聾	学力向上推進事業、自己認識力向上推進事業 自己表現力向上推進事業	鳥取養護	ネットワーク拡大推進事業、社会人育成事業 生活自立向上事業	白兔養護	社会人講師招聘事業、児童生徒の就労体験充実事業 職場開拓フォローアップ事業、就労セミナー事業 命の尊厳を守り育む事業 自立に向けた豊かな体験充実事業	倉養養護	生命の尊厳を守りはぐくむ事業、学校見学・就労セミナー 「自立」と「社会参加」をめざす豊かな体験活動事業 産業現場等における実習関連事業、職場開拓・追指導	皆生養護	社会人講師招聘事業、現場実習受入促進事業 職場開拓・フォローアップ事業、進路指導推進事業 コース別学習充実事業、わくわく体験事業	米子養護	就労促進啓発事業、農学連携推進事業 作業製品販売事業、現場実習受入先支援事業 職場開拓・フォローアップ事業、社会人講師招聘事業 けんべいアクティブチャレンジ事業、地域貢献事業
区分	積算方法																								
指導充実費	学校が自ら要求書を作成し、特別支援教育課が査定及び配分額を決定																								
学校運営費	(教育環境課より別途要求)																								
教職員旅費	過去3年間決算平均額、職員数・児童生徒数増減に伴う調整、旅費見直しに伴う調整等により決定																								
学校名	主な事業名																								
鳥取盲	社会人講師招聘事業、現場実習受入企業等への謝金 職場開拓フォローアップ事業、生活自立講師招聘事業																								
鳥取聾	学力向上推進事業、自己認識力向上推進事業 自己表現力向上推進事業																								
鳥取養護	ネットワーク拡大推進事業、社会人育成事業 生活自立向上事業																								
白兔養護	社会人講師招聘事業、児童生徒の就労体験充実事業 職場開拓フォローアップ事業、就労セミナー事業 命の尊厳を守り育む事業 自立に向けた豊かな体験充実事業																								
倉養養護	生命の尊厳を守りはぐくむ事業、学校見学・就労セミナー 「自立」と「社会参加」をめざす豊かな体験活動事業 産業現場等における実習関連事業、職場開拓・追指導																								
皆生養護	社会人講師招聘事業、現場実習受入促進事業 職場開拓・フォローアップ事業、進路指導推進事業 コース別学習充実事業、わくわく体験事業																								
米子養護	就労促進啓発事業、農学連携推進事業 作業製品販売事業、現場実習受入先支援事業 職場開拓・フォローアップ事業、社会人講師招聘事業 けんべいアクティブチャレンジ事業、地域貢献事業																								

## 7 決算調書

(総括表)  
一般会計

(単位：円)

区分	科目	予 算 現 額				計 A	決算額 B	決算額の内訳		翌年度 繰越額 C	差引増減額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減			本 庁	出納機関			
歳 出	教育振興費	260,727,000	△19,057,000	0	0	241,670,000	215,975,088	20,191,915	195,783,173	0	25,694,912	
	特別支援 学校費	364,103,000	39,833,000	1,314,789,000	0	1,718,725,000	1,521,972,026	1,224,819,500	297,152,526	172,037,250	24,715,724	
	合 計	624,830,000	20,776,000	1,314,789,000	0	1,960,395,000	1,737,947,114	1,245,011,415	492,935,699	172,037,250	50,410,636	
同 上 財 源 内 訳	行政財産 使用料	0	0	0	0	0	16,960			0	△16,960	
	教育手数料	0	0	0	0	0	7,180			0	△7,180	
	教育費 国庫負担金	40,913,000	△6,156,000	0	0	34,757,000	31,066,404			0	3,690,596	
	教育費 国庫補助金	17,744,000	△2,563,000	0	0	15,181,000	8,658,649			0	6,522,351	
	特別支援学 校費補助金	40,000	15,284,000	11,976,000	0	27,300,000	26,817,000			0	483,000	
	基金繰入金	149,000	0	0	0	149,000	0			0	149,000	
	繰越金	0	0	1,175,813,000	0	1,175,813,000	1,175,813,000			0	0	
	雑 入	486,000	0	0	0	486,000	836,057			0	△350,057	
	県 債	59,000,000	△28,000,000	127,000,000	0	158,000,000	78,000,000			0	80,000,000	
	小 計	118,332,000	△21,435,000	1,314,789,000	0	1,411,686,000	1,321,215,250			0	90,470,750	
	一般県費 充 当	506,498,000	42,211,000	0	0	548,709,000	416,731,864			172,037,250	△40,060,114	
合 計	624,830,000	20,776,000	1,314,789,000	0	1,960,395,000	1,737,947,114			172,037,250	50,410,636		

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果								
(教育振興費) 特別支援教育振興費	5,990,000	5,538,411	0	451,589	<p>就学指導委員会を開催し、障がいのある児童生徒の適正就学の推進を図った。また、特別支援学校教諭免許の取得に向け、免許法認定講習を開催し、教員の資質向上を図った。</p> <p>(1) 就学指導委員会の開催 年3回開催(10月23日、1月8日、1月24日) 委員(15名)：医師、学識経験者、児童福祉施設等職員</p> <p>(2) 特別支援学校教育職員免許法認定講習の実施 実施講習： ・特別支援教育の基礎理論に関する科目(1単位分) ・特別支援教育領域に関する科目(4単位分) ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(1単位)</p> <p>開催時期：平成24年7月31日～8月26日のうち12日間 開催場所：県立福祉人材センター 受講者：特別支援学校教諭、小・中・高等学校教諭、常勤講師、非常勤講師(延べ人数 683人)</p>								
被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業費	149,000	0	0	149,000	東日本大震災等により被災し、県内の特別支援学校及び特別支援学級へ就学することとなった幼児・児童・生徒の保護者に対する支援。平成24年度は実績なし。								
特別支援学校児童生徒支援事業	13,580,000	12,068,856	0	1,511,144	<p>遠距離地域から県立特別支援学校へ通学する児童、生徒の通学の安全確保及び保護者の負担軽減を図るため、通学支援員の配置や、通学バスを運行する市町村へ助成した。</p> <p>(1) 県立特別支援学校通学支援職員設置事業 &lt;外部委託&gt; ・鳥取聾学校 通学支援児童生徒数 2人 (委託先 倉吉シルバー人材センター) ・県立米子養護学校 通学支援児童生徒数 2人 (委託先 社会福祉法人あし一ど)</p> <p>(2) 市町村等が行う児童生徒通学支援に対する交付金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>交付先</th> <th>通学支援児童生徒数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>智頭町</td> <td>5人(鳥取養護学校、白兔養護学校)</td> </tr> <tr> <td>南部町</td> <td>5人(県立米子養護学校)</td> </tr> <tr> <td>江府町</td> <td>3人(皆生養護学校、県立米子養護学校)</td> </tr> </tbody> </table>	交付先	通学支援児童生徒数	智頭町	5人(鳥取養護学校、白兔養護学校)	南部町	5人(県立米子養護学校)	江府町	3人(皆生養護学校、県立米子養護学校)
交付先	通学支援児童生徒数												
智頭町	5人(鳥取養護学校、白兔養護学校)												
南部町	5人(県立米子養護学校)												
江府町	3人(皆生養護学校、県立米子養護学校)												

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
特別支援学校管理・運営事業	4,587,000	4,197,935	0	389,065	<p>特別支援学校の管理・運営及び充実・整備に向けた取組を行った。</p> <p>(1) 地域支援推進事業 各学校において、幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校等に対して教育相談や研修など、地域の特別支援教育の拠点としてセンター的機能の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部からの相談受付（新規） 563件（H24）</li> <li>訪問、助言（研修等の講師を含む） 1,192回（H24）</li> </ul> <p>(2) 医療的ケア 医療的ケアが必要な幼児児童生徒に対して看護師を配置するとともに、医療的ケアの研修等を行い、安全な環境整備に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の配置状況（特別支援学校6校、計9名）</li> <li>特別支援学校医療的ケア担当者連絡会 1回</li> <li>学校看護師研修会 1回</li> </ul>
県立特別支援学校通学バス運行管理委託事業	98,811,000	96,905,301	0	1,905,699	<p>通学バスの運行を実施し、県立特別支援学校（養護学校）における児童生徒の通学の安全確保及び保護者の負担軽減に努めた。</p> <p>5校 16路線 乗車人数 324人</p>
教職員人事管理費	920,000	769,458	0	150,542	<p>盲・聾・養護学校の教職員の任用及び人事異動等を行った。</p>
教育職員免許事務費	186,000	169,952	0	16,048	<p>教育職員免許状の授与願等を審査し、免許状等を交付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校教諭 <ul style="list-style-type: none"> <li>専修免許状 0件</li> <li>1種免許状 6件</li> <li>2種免許状 47件</li> </ul> </li> <li>ほか 98件</li> <li>計 151件</li> </ul>
就学奨励費	98,759,000	78,332,106	0	20,426,894	<p>特別支援学校へ就学する幼児、児童、生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学に対する助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助対象経費：教科用図書購入費、学校給食費、通学費、修学旅行費、学用品購入費等（740人）</li> </ul>
いじめ問題支援事業（特別支援学校）	356,000	172,260	0	183,740	<p>日常的に行っている教員による観察等に加え、心理検査を実施することにより、児童生徒一人ひとりの心の内面や学校内での人間関係を客観的に把握し、児童生徒への適切な対応を図った。</p>
(主)発達障がい児童生徒支援事業	2,996,000	2,797,983	0	198,017	
(主)特別支援学校就労促進事業	14,110,000	13,876,680	0	233,320	
(主)特別支援教育総合推進事業	1,226,000	1,146,146	0	79,854	
目 計	241,670,000	215,975,088	0	25,694,912	

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(特別支援学校費) 白兔養護学校訪問 学級整備事業(仮 設校舎解体撤去 費)	45,008,000	43,806,063	0	1,201,937	白兔養護学校訪問学級整備に係る 仮設校舎の解体撤去を実施した。
(主)県立高等特別 支援学校開設準備 事業	20,249,509	12,073,883	0	8,175,626	
(主)県立高等特別 支援学校整備費	1,338,846,000	1,172,322,550	166,523,450	0	
県立高等特別支援 学校備品費	244,926,491	230,070,167	0	14,856,324	県立高等特別支援学校の必要備品 を整備した。
県立高等特別支援 学校グラウンド整 備事業	7,762,000	7,761,600	0	400	県立高等特別支援学校のグラウン ド整備に係る実施設計を実施し た。
県立高等特別支援 学校農場整備事業	61,735,000	55,823,338	5,513,800	397,862	県立高等特別支援学校の農場整備 の実施設計及び第1期工事を実施 した。
県西部への特別支 援学校(病弱)高 等部設置検討事業	198,000	114,425	0	83,575	県西部への特別支援学校(病弱) 高等部設置に向けた検討会を実施 した。
目 計	1,718,725,000	1,521,972,026	172,037,250	24,715,724	
合 計	1,960,395,000	1,737,947,114	172,037,250	50,410,636	

<参考：他課（教育環境課）予算>

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(主)学校裁量予算 指導充実費	38,959,000	—	—	—	(教育環境課予算)



9 予備費の充用調べ

該当なし

10 繰越関係調べ

(1) 継続費通次繰越調べ

(単位：円)

科目	事業名	継続費の 総額	平成24年度継続費予算現額			支出済額	残額	翌年度 通次 繰越額	左の財源内訳	
			予算計上額	前年度通 次繰越額	計				繰越金	特定財源
										地方債
特別支援 学校費	県立高等特別 支援学校整備 費	2,153,541,000	66,104,000	1,272,742,000	1,338,846,000	1,172,322,550	166,523,450	166,523,450	166,523,450	0
	県立高等特別 支援学校農場 整備費	97,234,000	57,031,000	0	57,031,000	51,517,200	5,513,800	5,513,800	5,513,800	0
合計		2,250,775,000	123,135,000	1,272,742,000	1,395,877,000	1,223,839,750	172,037,250	172,037,250	172,037,250	0

(2) 繰越明許費調べ 該当なし

(3) 事故繰越調べ 該当なし

1 1 収入証紙取扱額調べ

収入科目			件数	単価 (円)	証紙はりつけ額 (円)	備考
目	節	細節				
教育手数料	教育手数料	証明書 発行手数料	2	650	1,300	うち1件については平成25年度収入
	計(節)		2	650	1,300	
本庁執行分計(目)			2	650	1,300	
出納機関執行分計(目)					5,880	鳥取盲学校、白兔養護学校、倉吉養護学校、米子養護学校
目計					7,180	
合計					7,180	

1 2 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料 該当なし

(3) 手数料

(単位：円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
教育手数料	教育手数料	証明書発行 手数料	2	1,300	1,300	0	0	鳥取県手数料徴収条例	
	計(節)		2	1,300	1,300	0	0		
本庁執行分計(目)			2	1,300	1,300	0	0		
出納機関執行分計(目)			14	5,880	5,880	0	0		鳥取盲学校、白兔養護学校、倉吉養護学校、米子養護学校
目計			16	7,180	7,180	0	0		
合計			16	7,180	7,180	0	0		

(4) 財産収入 該当なし

(5) 寄付金 該当なし

## (6) 諸収入

(単位：円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
雑入	雑入	講習受講料	686	343,000	343,000	0	0	鳥取県教育職員免許法認定講習実施要領	免許法認定講習受講料
本庁執行分計(目)			686	343,000	343,000	0	0		
出納機関執行分計(目)				493,057	493,057	0	0		鳥取盲学校 鳥取聾学校 鳥取養護学校 白兔養護学校 倉吉養護学校 皆生養護学校 米子養護学校
目計				836,057	836,057	0	0		
合計				836,057	836,057	0	0		

## (7) 現金の取扱状況

## ア 現金取扱状況

(単位：円)

収入科目(節)	収入済額	備考
教育手数料 (教育手数料)	650 (1件)	証明書発行手数料
雑入 (雑入)	343,000 (686件)	免許法認定講習受講料
合計	343,650 (687件)	

## イ つり銭の状況

(平成25年3月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)

- 13 税外収入未済額調べ 該当なし
- 14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし
- 15 税外収入不納欠損額調べ 該当なし

16 債務負担行為の状況調べ

事業名	種別	設定状況			当該事業の 契約額等	執行（支出）状況 債務負担行為の期間					合 計 A + B	備考
		議 決	期 間	限度額		設定年度 の執行額 A	23年度までの 執行額	24年度 執行額	25年度以降の 執行予定額	計 B		
特別支援学校 通学バス運行 業務委託・バス 賃借料	委託料 借上料	平成19年 12月	平成20年 ～ 平成26年	300,225,000	委託料 10,921円～ 22,365円／便 借上料 2,700千円／年	0	258,259,369	2,700,000	5,400,000	266,359,369	266,359,369	
鳥取養護学校 通学バス運行 管理業務委託	委託料	平成21年 12月	平成22年 ～ 平成24年	43,974,000	10,080円／便	0	23,869,440	12,116,160	0	35,985,600	35,985,600	
県立特別支援 学校通学バス 運行管理業務 委託	委託料	平成22年 12月	平成23年 ～ 平成25年	309,672,000	委託料 13,335円～ 22,680円／便	0	81,482,676	84,207,660	103,224,000	268,914,336	268,914,336	
県立高等特別 支援学校備品 費	備品購 入費	平成23年 6月	平成24年	59,075,000	0	0	0	22,781,743	0	22,781,743	22,781,743	
県立高等特別 支援学校給食 業務委託	委託料	平成24年 6月	平成25年 ～ 平成27年	64,740,000	60,858,000	0	0	0	60,858,000	60,858,000	60,858,000	
鳥取養護学校 通学バス運行 管理業務委託	委託料	平成24年 11月	平成25年 ～ 平成27年	44,478,000	12,075円／便	0	0	0	44,478,000	44,478,000	44,478,000	
合 計				822,164,000		0	363,611,485	121,805,563	213,960,000	699,377,048	699,377,048	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ  
 (1) 負担金

(単位：円)

予算科目 (目)	予算額	区分	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令 名等(規約、要領 等を含む)	備考
(教育振興費)	280,000	単県	鳥取大学への内地留学研修に係る負担金	鳥取市湖山町南四丁目101 国立大学法人鳥取大学	10/10	H24.4.27	280,000	鳥取県教育委員会からの現職教育内地留学生受入要項	
	268,000	単県	鳥取大学大学院地域学研究科前期授業料	鳥取市湖山町南四丁目101 国立大学法人鳥取大学	10/10	H24.5.29	535,800	鳥取大学学生等の授業料その他の費用の額及びその徴収方法を定める規則	
	268,000	単県	鳥取大学大学院地域学研究科後期授業料	鳥取市湖山町南四丁目101 国立大学法人鳥取大学	10/10	H24.11.6	535,800	鳥取大学学生等の授業料その他の費用の額及びその徴収方法を定める規則	
(特別支援学校費)	39,947,000	国庫	鳥取県立白兔養護学校訪問学級整備工事業務施工に係る負担金	独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター	10/10	H25.2.28	39,942,063	独立行政法人国立病院機構鳥取医療センターによる病棟等更新築整備工事と併せて行う鳥取県立白兔養護学校訪問学級整備工事の実施に関する基本協定書等	
支出額が10万円未満のもの							0		
本庁執行分計							41,293,663		
出納機関執行分計							254,000		倉吉総合産業高等学校、鳥取湖陵高等学校、鳥取盲学校、鳥取聾学校、鳥取養護学校、白兔養護学校、皆生養護学校、米子養護学校
目計							41,547,663		
合計							41,547,663		

(2) 補助金

予算科目 (教育振興費)

① 国 補 分

(単位：円)

補助金等の名称 (補助金等の創設年度)	交付先	間接	補助対象経費	実施計画承認 又は内示年月日	着手 年月日	額の確定 年月日	支出の状況			備考
				交付申請 年月日	完了 年月日	検査 年月日	概算払、 精算払の 別	支出年月日	金額	
事業の内容			補助率及び 補助金額	交付決定 年月日	実績報告 年月日	審査・実地 調査年月日				
鳥取県特別支援教育総合 推進事業補助金  (24年度)	鳥取市 外1件		1,679,460	—		H25.5.13	精	H25.5.21	1,119,000	
				H24.8.24						
市町村における特別支援 教育の体制整備を推進す ために必要な経費を助成 する。		(補助率：2/3)	1,119,000	H24.10.10	H25.3.19 外	H25.5.13				
本庁執行分計									1,119,000	
出納機関執行分計									0	
単 県 分 計									1,119,000	
表の補足説明	15 「交付申請年月日」及び「交付決定年月日」欄の( )書きは、変更に係るものの当初の年月日である。									

② 単 県 分

(単位：円)

補助金等の名称 (補助金等の創設年度)	交付先	間接	補助対象経費	実施計画承認 又は内示年月日	着手 年月日	額の確定 年月日	支出の状況			備考
				交付申請 年月日	完了 年月日	検査 年月日	概算払、 精算払の 別	支出年月日	金額	
事業の内容			補助率及び 補助金額	交付決定 年月日	実績報告 年月日	審査・実地 調査年月日				
市町村等が行う特別支援 学校児童生徒通学支援事 業交付金(16年度)	智頭町 外2件		8,207,938	H24.3.19		H25.5.10	概	H24.5.16	1,623,000	
				H24.3.28外				概	H24.9.12	
				(補助率：定額)	H24.4.12	H25.3.29 外	H25.5.10	精	H25.5.21	
市町村やNPO法人等が 行う特別支援学校の児童 生徒に対する通学支援の 事業に助成する。			8,207,938							
本庁執行分計									8,207,938	
出納機関執行分計									0	
単 県 分 計									8,207,938	
表の補足説明	15 「交付申請年月日」及び「交付決定年月日」欄の( )書きは、変更に係るものの当初の年月日である。									

(2-2) 補助金 (他課から予算の配当替えを受けて執行するもの)

予算科目 (教育振興費)

① 国 補 分

該当なし

② 単 県 分

該当なし

(3) 交 付 金

該当なし

(4) 委託料

(単位：円)

予算科目 (目)	国補 単 の 別	委託料の名称	委託契約 の相手方	当 初 契 約		入札等 年月日 (契約保証金納付 等年月日)	完 了 年 月 日	支 出 の 状 況			備 考		
				予定価格	(契約年月日) 契 約 額			契 約 期 間	支出 区分	支 出 年 月 日		金 額	
				変 更	(契約年月日) 契 約 ( 最 終 ) 契 約 額			契 約 期 間					
(教育振興費)		該当なし											
予定価格が20万 円未満のもの												172,260	
本庁執行分計												172,260	
出納機関執行分計												97,844,738	特別支援学校 6校(鳥養、鳥 養、白兔、倉 吉、皆生、米子)
目 計												98,016,998	
(特別支援学校 費)	単県	県立琴の浦高等特別 支援学校仮執務室環	(株)ケーオ ーエー	857,850	(H24.7.20) 846,405	H24.7.20~ H24.9.30	H24.7.6 (免除)	H24.9.30	精	H24.10.15	846,405	新規	
	単県	県立琴の浦高等特別 支援学校校章リデザ イン業務	鳥取県デ ザイナー 協会	577,500	(H24.8.27) 577,500	H24.8.27~ H24.10.25	随意契約 随意契約 (免除)	H24.9.30 H24.11.30	精	H24.12.18	577,500	新規	
	単県	県立高等特別支援学 校寄宿舎新築工事に 係る工事監理										9,082,500	新規 営繕課へ配 当 替え
	通次 単県	県立高等特別支援学 校寄宿舎新築工事に 係る設計意図伝達										871,500	新規 営繕課へ配 当 替え
	通次 単県	県立高等特別支援学 校教室棟新築他工事 に係る工事監理										21,497,500	新規 営繕課へ配 当 替え
	通次 単県	県立高等特別支援学 校教室棟新築他工事 に係る設計意図伝達										1,840,000	新規 営繕課へ配 当 替え
	通次 単県	県立高等特別支援学 校グラウンド改修工 事「測量設計業務委 託」										2,096,850	新規 営繕課へ配 当 替え
	明許 繰越												
予定価格が20万 円未満のもの												160,125	
本庁執行分計												36,972,380	
出納機関執行分計												13,178,090	
目 計												50,150,470	
合 計												148,167,468	





18 工事請負費調べ（続き）

（単位：円）

予算科目 （目）	国補 単 県 の 別	工 事 名	当 初 契 約			入札等年月日 （契約保証金 納付等年月日）	請 負 人	支 出 状 況			実 地 完 成 年 月 日	変 更 （解除） の理由 ・ 内容	備 考
			（起工年月日） 設計額	（契約年月日） 契約額	工 期			金 額	支 出 区 分	年 月 日			
			変 更 契 約 （最終）			契 約 形 態					年 月 日		
			（変更年月日） 設計額	（契約年月日） 契約額	工 期								
(特別支援学校費)	単県 通次	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事(電気設備)	( )	( )	～	( )				98,004,300			営繕課に 担当替え
	単県 通次	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事(機械設備)	( )	( )	～	( )				122,904,750			営繕課に 担当替え
	単県 現年	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事(昇降機設備)	( )	( )	～	( )				13,440,000			営繕課に 担当替え
	単県 通次	県立高等特別支援学校寄宿舎新 築工事(建築)	( )	( )	～	( )				205,103,850			営繕課に 担当替え
	単県 通次	県立高等特別支援学校寄宿舎新 築工事(電気設備)	( )	( )	～	( )				49,741,650			営繕課に 担当替え
	単県 通次	県立高等特別支援学校寄宿舎新 築工事(機械設備)	( )	( )	～	( )				63,477,650			営繕課に 担当替え
	単県 現年	県立高等特別支援学校農場栽培 ハウス整備工事(第1期建築)	( )	( )	～	( )				14,385,000			営繕課に 担当替え
	単県 現年	県立高等特別支援学校農場栽培 ハウス整備工事(第1期電気設備)	( )	( )	～	( )				7,543,200			営繕課に 担当替え
	単県 現年	県立高等特別支援学校農場栽培 ハウス整備工事(第1期機械設備)	( )	( )	～	( )				29,589,000			営繕課に 担当替え
	単県 現年	白兎養護学校訪問学級整備事業 (仮設校舎解体撤去費)	( )	( )	～	( )				3,864,000			営繕課に 担当替え
	本庁執行分計									1,194,412,250			
	出納機関執行分計									0			
目 計									1,194,412,250				
合 計									1,194,412,250				

18-2 工事請負費調べ（他課から予算の担当替えを受けて執行したもの）  
該当なし

19 財産に関する調べ

(1) 公有財産 該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成25年3月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 2,110	円 5,200	円 6,310	円 1,000	
合 計	2,110	5,200	6,310	1,000	

イ タクシーチケットの受払状況

(平成25年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本 年 度 中		本年度末未使用枚数
	購 入 枚 数	使用枚数及び金額	
枚 75	枚	8 枚 21,280 円	枚 67

(3) 基金 該当なし

(4) 債 権 該当なし

20 財産の貸付け及び使用許可調べ 該当なし

21 借受不動産明細調べ 該当なし

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ 該当なし

23 自動車（二輪を除く）の管理状況調べ 該当なし

24 寄附物件の受納状況調べ

品 名	規格、銘柄等	数 量	見積金額	寄 附 申 込 年月日	寄 附 申 込 者 氏 名	受 納 年月日	受 納 手 続 の有無	備 考
書 籍	「ありのごちそうな ーに？」ほか児童図 書8種類	65冊	84,420円	H25.3.18	黄色い手帳運動推進 協会 (株)山陰中央新報社 代表取締役社長 他	H25.3.18	有	県立特別支援 学校への寄贈
合 計		65冊	84,420円					

25 備品の処分状況調べ 該当なし

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ 該当なし

27 貸付金等状況調べ 該当なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見、要望等 特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等 特になし